

得田加賀介章房申軍忠事

右今年應安四月、爲勢州凶徒御退治、吉見兵部大輔殿御發向之間、章房自能州、同五月九日馳參江州守山宿、屬于御手、同十三日被召勢州長野御陣之間、致忠節訖。將又於片田山・垂水山・高足・須賀山・夜居森等御陣、抽忠節畢。仍迄于御上洛之期、令供奉之條、大將御存知上者、下賜御證判、爲備向後龜鏡、言上如件。

應安三年十月 日

(吉見兵部大輔)
承 了 在判

十月。能登の士得田章親、伊勢に於ける軍忠を具申して吉見兵部大輔の證判を求む。

【得田文書】

五六六

得田十郎章親申軍忠事

右今年應安四月爲勢州凶徒御退治、吉見兵部大輔殿御發向之間、章親自能州、同五月九日馳參江州守山宿、屬于御手、同十三日被召勢州長野御陣之間、致忠節畢。將又於片田山・垂水(山脫力)・高足・須賀山・夜居森等御陣、抽忠節畢。

仍迄于御上洛之期、令供奉之條、大將有御存知上者、下賜御證判、爲備向後龜鏡、言上如件。

應安四年十月 日

(吉見兵部大輔)
承 了 在判

建德三年 壬子
文中元年 十月四日
應安五年 京都 紀元二〇三三

三月十二日。幕府、吉見右馬頭入道をして、山城南禪寺領鳳至郡櫛比保地頭職を同寺雜掌に交付せしむ。

【南禪寺文書】 山城

五六七

南禪寺雜掌良心申、能登國櫛比保長近江守跡地頭職事、爲當寺山門造營料所嚴重之地也。而號庶子分渡漏所々在之云々。事實者太不可然。所詮一圓打渡當保於寺家雜掌、全所務可被申左右。更不可有緩怠之狀、依仰執達如件。

應安五年三月十二日

(細川頼之)
武藏守 在判

吉見右馬頭入道殿

(本年六月廿三日の條參照。)

五月。珠洲郡春日野白山社の獅子頭成る。

【春日野白山社獅子頭銘】 珠洲郡

五六八

法住(寺)土

爲

願主西原(子)仁見大夫

色執秀珍

應安五子壬歲五月日

(春日野の白山社はもと法住寺の鎮守たりしなるべし。)

六月二日。幕府、加賀守護富樫昌家をして、山城臨川寺領加賀郡大野莊湊着岸の商舟に公事課役を停めしむ。

【臨川寺重書案文】 山城

五六九

臨川寺領加賀國大野庄湊着岸商舟事、依懸充公事課役、往來舟更不出入云々。云土民歎、云商賣煩、固所被停

文中元年(應安五年)

止也。而猶不叙用先度御教書、恣及濫責條、太招其咎歟。不日可止其責旨、載請書可被申左右。若無承引者、可有後悔之狀、依仰執達如件。

應安五年六月二日

(細川頼之)
武藏守 在判

富樫昌家介殿

六月廿三日。幕府、五井頼持に、珠洲郡正院郷伏見等の地を知行せしむ。

【吉見文書】

五七〇

(下五井先逆將監持力)

可令早(願知)能登國正院郷内伏見・小泊・毛壽・蟬浦等長近江入道事

右爲勳功之賞、所被宛行也。者、早守先例可致沙汰之狀、依仰下知如件。

應安五年六月廿三日

(細川頼之)
武藏守源朝臣 在判

【吉見文書】

五七一